

海運の重要性を学校教育の場で
～新潟にて海事施設の見学会を開催～

日本船主協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を 学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し商船をはじめとする海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、北陸信越海事広報協会等とともに、新潟国際貿易ターミナルおよび日本海エル・エヌ・ジーの協力を得て、10月28日（金）に新潟市立紫竹山小学5年生約90名を対象にコンテナターミナルおよびLNG新潟基地（車窓）の見学会を開催しましたのでその様子をお知らせします。

【見学会概要】

コンテナターミナルでは、児童は3班に分かれて、①管理棟屋上からコンテナターミナル全景を見学、②会議室にてコンテナターミナル概要の説明を受ける、③バスにてコンテナターミナル構内を見学、を夫々実施しました。

①管理棟屋上からのコンテナターミナル全景

多くのコンテナが並んでいることに驚くとともに、荷役中のコンテナ船を見ることができました。「コンテナターミナルができるまでにどれくらいの年月がかかるの?」「ガントリークレーンの高さは何メートルあるの?」「コンテナの色の違いは何かあるのか?」などといった質問が児童からは寄せられました。



②会議室でのコンテナターミナル概要説明

新潟東港国際ターミナル担当者から同港ターミナルの概要（輸出入品や輸出入相手国など）や貿易の流れなどについて、動画も活用しながら説明が行われました。特にガントリークレーンを実際に操作している動画では、高い場所から正確にコンテナを積み下ろしている作業員の姿に児童は驚いている様子でした。



③バスでのコンテナターミナル構内見学

コンテナ船に巨大なガントリークレーンで荷役をしている迫力のある様子やストラドルキャリアがトラックにコンテナを積み込む様子を間近で見るなど、普段立ち入ることができないエリアで貴重な経験をすることができました。また、リーファコンテナなど温度調整ができるコンテナがあることなどを知ることができました。



コンテナターミナル見学後は、日本海 LNG 新潟基地に向かい、日頃何気なく利用している電気やガスの元となる LNG を外国から船で輸入されていることを学ぶとともに、全長 300m の LNG 船が着岸する栈橋も見学することができました。

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。